

2015年2月クラブラン「しみずイチゴ狩りポタリング」



可憐なイチゴの花と大きく育った果実

基礎データ

クラブラン実施日	2015年02月11日(水・祝)
クラブラン名称	2015年2月クラブラン「しみずイチゴ狩りポタリング」
行程	JR清水駅⇒久能山「まるぞうイチゴ狩り組合」農園 ⇒三保半島海岸⇒羽衣の松⇒三保飛行場⇒三保水上 バス停⇒江尻水上バス停⇒清水魚市場「河岸の市」 走行約20Km「かるい」
集合場所	JR東海道本線 清水駅東口 10:30 集合、11:00 出発
企画・担当	O湖
レポート担当	O湖
参加者	F本、O笠原、O湖
参加機種	700Cロード×1機、24吋中径車×1機、20吋小径車×1機
天候	快晴、微風、気温この季節にしては暖かし

毎年2月のクラブランは2009年より恒例のイチゴ狩りです。厳冬期に走るならば、気候温暖にして陽光をたっぷり浴びることのできる地域で催そう。そして瑞々しい果物を同じくたっぷり味わいたいという思いで企画しました。

清水という土地はこの条件に合致していきまして、日当たりのよい南東に向けた海岸線を進むと久能地区に進出します。当地ではイチゴ農園が組合を作って、来園者にイチゴ狩り食べ放題を楽しませてくれます。

またこの地域には、登呂遺跡のように弥生時代人の古代から、中世今川家の人質だった松平竹千代こと長じて徳川家康を祀った久能山東照宮、幕末の侠客から維新後事業家にして篤志家となった清水次郎長親分、現代人の象徴的な人物像ちびまる子ちゃん、そして2013年世界文化遺産「富士山」の構成資産として一体化して認められた「三保松原」などなど…。地域の歴史、経済、人物、文化などにゆかりの深い事柄が数多くあります。自転車でこれらを巡るチャレンジの楽しみに倍加して、おいに知的好奇心をそそられます。



清水駅前モニュメントを通して望む富士山



道行く途中、河津桜の蕾も見受けました

快晴の清水駅前を予定どおりに出発、通り慣れた久能地区を目指します。約30分後にはイチゴを頬張っていました。う～ん美味しい、おいしいなあ…。甘みと酸味が調和して優しい味覚を感じます。

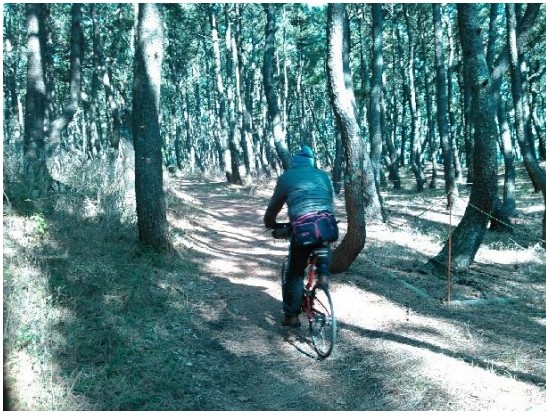


ハウスは階段状に設営されています



ハウス内はじつに暖かいです

温室内は暖かく、上着を脱いで軽装になります。この理由はもうひとつありまして、身軽になってハウスの中で動きやすくするのです。あちらで房を頬張り、こちらに移動してまた頬張る。ハウス内の通路で人とすれ違うとき、上着で膨れた上半身が相手に触れ、摘んだイチゴを入れたトレーを落としてしまわないようにとの作法です。



鬱蒼たる松林のトレイルをくぐりゆっくりと進みます

イチゴ農園からは、道路を渡ってすぐ海岸です。渚に沿って歩行者自転車専用道路が東へ三保方面、南へ登呂遺跡方面へと双方に展開しています。一行は微風を受けて三保の松原へ向けて走り出しました。

松林に近づくと路は行き止まりになりました。この先は人が踏み固めた小径をたどり、松の根などを傷つけないようにゆっくり進みます。



三代目「羽衣の松」にて



三保松原越しに富士を臨む

天女が衣を掛けたといわれる「羽衣の松」は三代目となりました。先代は樹齢約 400 年を重ねたそうですが、立枯れが目立つようになったので数年前に代替わりしました。この松林越しに臨む富士をもって、三保松原は世界文化遺産「富士山」の構成資産として登録されました。白砂青松と霊峰富士を組み合わせた眺望は、各地の銭湯の壁画にも多く描かれるほど著名な文化となっています。



三保飛行場へ進む一行、正面約 40km 向こうに富士を臨む

これより先は再び歩行者自転車道が出現し、駿河湾から遙か伊豆半島の山並みを臨みつつ進みます。

じきに三保飛行場に進出しました。低翼単葉単発の小型飛行機がカバーを掛けられて駐機しています。傍には「赤十字飛行隊」と前面に書かれた大型車輛が事務所代わりに置かれています。滑走路はごく短く見えました。ここを小型機が駿河湾に向けて離発着するのは、記録映画で知る航空母艦の甲板のようなイメージです。



参照：「日本飛行連盟 赤十字飛行隊」ホームページ

<http://www5.ocn.ne.jp/~jfa/redcross.htm>

赤十字飛行隊は、日本赤十字社が航空機を使用して行う災害救護など、人道的な業務に無償で協力することを目的としています。2011年活動記録によると、自然災害の被災状況の調査飛行、医薬品や支援物資の輸送、移植臓器の搬送などの実績があります。



水上バス「三保バス停」、休日は運航数が多い

三保半島を西側に回り込むと、ほどなく水上バス停「三保」です。休日は1時間あたり2本運行の時間帯が多く、平日に比べ運航本数は倍増しています。また水上バスには自転車を積むことができるので、わたしたち一行も利用できるのが嬉しいです。観光の便利な足として行政も応援している水上バス「チャリ三保号Ⅱ」は、清水港・三保間を連絡して好評運航中です。

参照：静岡市ホームページ「水上バスと路線バスで三保松原へ行こう」

<http://www.city.shizuoka.jp/deps/kanko/charisampo.html>



バス停から対岸まで約 15 分の船旅



バス停棧橋から三保方面を見る、意外と長い棧橋

乗船待ちの時間帯に、浜松から当地を訪れたカメラマンに写真を撮っていただきました。偶然に乗り合わせた旅人同士が知り合う水上バスの出会い、嬉しく楽しいひとときです。



後甲板に重ねて駐輪します

一緒に乗船して対岸の江尻バス停に向かう早々、忘れものに気付きました。撮影用の三脚を棧橋に置いてきてしまったそうです。すぐに乗務員に申し出たところ、引き返してくださいまして三脚は無事回収できました。小回りが利く船ということもありましたが、機転の利いた判断と操船がありがたいです。



すれ違う遊覧船に手を振って挨拶します

乗船したのはわずか15分くらいでしたが、その間にはすれ違う遊覧船に手を振ったり、上空を舞う海鳥に餌をやったりと娯楽性ある船旅を楽しめます。面白いのは、この餌を船内で販売しているのですよ。鳥の生態に興味のある人が多く乗船するのでしょうかね。

航行する水上バスの後上方には海鳥が群れて対岸までついてきます。海鳥は食糧を頂戴して人馴れしているのでしょうか、それとも餌を撒く人間の方を海鳥が興味を持って観察しているのでしょうか、ちょっと判りかねますけれど…。

2015年2月クラブラン「しみずイチゴ狩りポタリング」、以上